

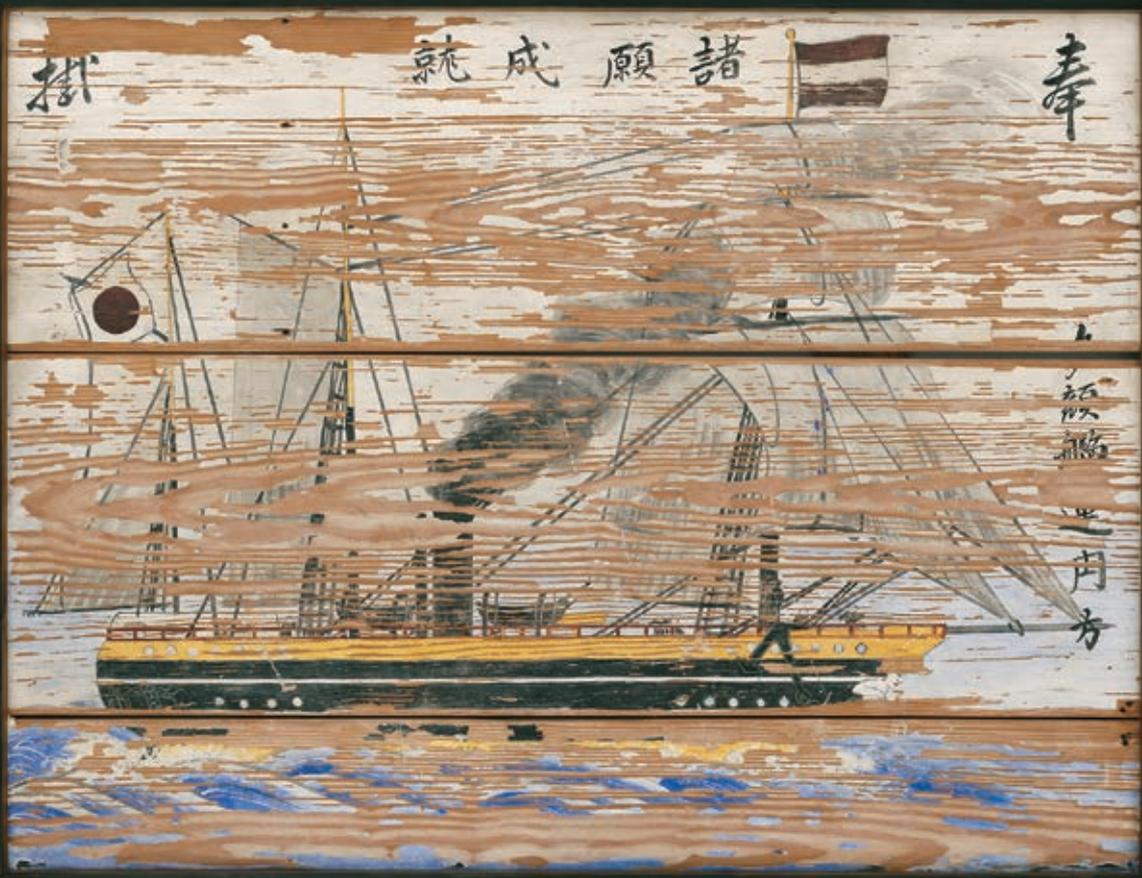
自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 85

2018 September

- 「龍馬たちのデモクラシー」
- 旅する資料 館蔵資料の出版
- 「志国高知 幕末維新博」関連企画
 - 第六弾「明治第一ノ改革 一明治維新一を生きた土佐人」
 - 第七弾「明治第二ノ改革 一自由民権一を志した人々」
- 平成30年度 夏休み子ども歴史教室報告



夕顔艦絵馬 (仁井田神社蔵/当館保管)

■リレーエッセイ

民権運動を経て「新国家」へ

坂本龍馬記念館では、現在、リニューアルオープン後の二番バッテリーとなる企画展「大義と忠誠の戊辰戦争」展を開催している。龍馬が登場しない展示は当館としては珍しいが、明治維新150年という節目の年に相応しい内容となっているので是非ご覧いただきたい。

今回の展示の特徴は、会津若松城での熾烈な戦いに止まらず、新政府に恭順し、無血開城して土佐藩の隊に加わって戦った福島・三春藩の郷士「河野広中」にスポットを当て、その後の自由民権運動を通じた板垣退助や片岡健吉、植木枝盛、そして、「民権ばあさん」楠瀬喜多など高知の民権家との交流を紹介している点にある。福島と高知は戊辰戦争で戦い、また、新国家をめざして民権運動を共に闘ったのである。

尊王が佐幕が、攘夷が開国かなど様々な論がせめぎ合った幕末ではあったが、龍馬をはじめ多くの心ある人達が求めた新国家の姿はどのようなものであり、何時実現したのか。

龍馬が新しい国の在り方として示した新政府綱領八策には、第三義「外国ノ交際ヲ議定ス（国際条約の締結）」、第四義「新タニ無窮ノ大典ヲ定ム（憲法の制定）」、第五義「上下議政所（両院議会の設置）」とある。

ある歴史研究家の方は、幕末の我が国が「半開の国（文明開化半ばの国）」とされたために、欧米諸国との間で結ばざるを得なかった不平等条約、いわゆる安政の五か国条約を対等な条件で結び直すことが国是であり、これを実現するために、幕府のためでなく、朝廷のためでなく、ましてや藩のためでなく、夫々の立場を超えた挙国一致の体制を構築すべく模索したのが、「維新」への歩みであると述べられている。

自由民権運動を経て、憲法公布、国会開設後、第二次伊藤内閣の外相・陸奥宗光（海援隊士であり、現存する龍馬の最後の書簡の宛先が残された国家的課題であった条約の一部改正を実現したのは、明治27年のことである。

明治維新150年。民権運動顕彰のメッカ「自由民権記念館」を訪れ、改めて、近代日本の足跡や龍馬の夢の「その後」を学んでみたいと思う今日この頃である。

高知県立坂本龍馬記念館館長 高松 清之

2018(平成30)年6月30日、植村隆氏を講師にお迎えし開催しました、企画展坂本直寛―龍馬の遺志を継ぐもの―展記念講演会・高知近代史研究会第94回研究会の要旨を掲載します。

坂本家のデモクラシー、坂本龍馬一族の話、龍馬たちのデモクラシーとは何だったのか。そして、我々はそこから何を学んでいくのか。

坂本龍馬には抱き続けた夢があった。京都大学付属図書館に、蝦夷地(北海道)開拓を夢見た坂本龍馬の手紙が残されている。1867(慶応3)年3月6日、友人の長府藩士・印藤聿(のぶる)に宛てた手紙である。第四段に「私は蝦夷に渡ろうとしていた頃より、新しい国を開くことは以前からずっと思っていたことで、一生を懸ける思いです。何としても、一人でもやり遂げるつもりです。」とある。

実際、龍馬の仲間たちは、北海道を視察している。龍馬の師・勝海舟も日記に、龍馬が若者たちを幕府の船で北海道に渡航させようとしていることに触れ、「志気甚盛なり」と書いている。だが、池田屋事件で龍馬の計画は中止となる。一緒に北海道行きを準備した同志が死んでしまったからである。龍馬はこの事件から約3年後にその手紙を書く。「一人でもやり遂げる」という言葉が強い信念を感じさせる。しかし、龍馬もその手紙から約8か月後、京都・近江屋で凶刃に倒れることになる。

その龍馬の夢を継いだ者がいる。龍馬の甥、坂本直寛(なおひろ)である。高松順藏の次男として土佐・安田村で生まれ、母千鶴(は龍馬の姉である。龍馬の兄・権平)の養子となり、郷土坂本家の五代目となる人物である。

1874(明治7)年、板垣退助らは土佐

に立志社を創立し、直寛はその社員となる。3年後には自由民権運動の言論活動を開始していく。自由民権運動が盛り上がった1881(明治14)年には「政論」を発表し、人民主権を強調する。「平等権利説」「民権重視説」「人民の保護」「立憲政治の薦め」などを訴えているが、これより十数年前に民主主義を訴えている文書がある。1868(明治元年12月に発行された「藩論」である。「藩論」は海援隊で龍馬の書記を務めた長岡謙吉が、前年11月に暗殺された龍馬の考え方をまとめたものとされる。「藩論」は藩政改革を訴えた冊子だが、「議會制」「庶民の政治参加」「天皇絶対主義の否定」「万民平等」などのデモクラシーの理念が込められ

「坂本直寛―龍馬の遺志を継ぐもの―」展記念講演会 第94回高知近代史研究会報告

龍馬たちのデモクラシー

ている。民主主義の政治思想が龍馬から直寛へ受け継がれていたのである。

「政論」を発表した頃、直寛は植木枝盛らとともに憲法起草委員となる。直寛は枝盛の思想形成に大きな影響を与えたといわれている。

直寛ら立志社の憲法起草委員は「日本憲法見込案」をつくり、枝盛は単独で「東洋大日本国々憲案」を作成する。どちらも人民主権を打ち出した民主的な私擬憲法である。一方、政府は言論を弾圧し、天皇中心の憲法を構想していた。

1887(明治20)年、政府は民権家たちに東京からの退去を命じる。命令を拒否した直寛・片岡健吉ら21人は有罪となり

投獄される。この2年前キリスト教徒となっていた直寛は、獄中信仰を強めていく。1889(明治22)年2月、大日本帝国憲法が公布され、直寛らは大赦で釈放される。その後、直寛は新天地として北海道を目指すことになる。

1896(明治29)年2月、旧立志社の同志で、東京にいた片岡健吉に直寛は手紙を書く。「小弟は祈りと熟考とに由て断然北海の拓殖を決い(中略)将来日本社会に一の潔き義に生るの神の国を作り度存候」。北海道開拓への決意を伝える手紙である。1897(明治30)年、キリスト教を基盤にした合資会社「北光社」の農場を北見に開く。そして翌年、一家を引き連れて浦臼に

移住する。叔父・龍馬の夢を直寛が実現しようとしたのである。

そして、デモクラシーの精神は子孫へと引き継がれていく。

父・直寛と共に北海道へ移住した長男の坂本直道は、満鉄のパリ事務所長となり、世界へ羽ばたく。フランス・ジャポンを創刊し、「フランスとは文化同盟を結び、日本に真の民主主義を育てなければならぬ」といっている。

また直道は、戦時中には公職にも就かず、軽井沢へ行き、ジャーナリストの清沢湧や鳩山一郎と交流する。清沢の1945(昭和20)年5月2日の日記には、こうある。「談話は極めて愉快だった。イグノランス(無

知)がいかに罪悪であるかが、三人の一致した意見である。国民を賢明にする必要がある。それにはまず言論自由を許すのが先決問題だ」と。直道は名誉や地位、財産などにこだわらず、信念に生きた。龍馬の生き方と重なって見える。

直寛の長女(直意)の婿養子、坂本弥太郎の次男として釧路で生まれたのが、坂本直行である。山好きで、北海道帝国大学農学専科を出て、父・弥太郎の猛反対を押し切って原野に入る。弥太郎は、山登りをするために大学へ行ったわけではないと言って猛反対をするが、直行の決意は固く負けてしまふ。直行もまた、反骨精神があり、北海道を代表する山岳画家として親しまれ「発信力」を持ち、龍馬と通じるものがある。

なお、弥太郎は郷土坂本家の七代目で、直寛が北海道へ渡るときに坂本家の遺品を色々持って行って、それを弥太郎が継ぐわけであるが、後に龍馬の遺品を恩賜京都博物館(現在の京都国立博物館)へ寄贈し、大半はのちに重要文化財に指定される。

龍馬たちというのは決して龍馬の子孫のみを言っているのではない。龍馬に心を寄せる人々のことである。龍馬の精神を受け継いでいこうとする人々のことを言うのだが、そこから何を学ぶのか。龍馬の心を学ぶのにお金は要らない。龍馬はあの時、日本のせんとくをしようとしていた。実は、せんとくをしなければいけないのはあの時代だけではない。今こそ龍馬の考えていたことを胸に手をあてて考えてみよう。「全ての権力は国民より発す。これは自由民権の基本テーマである。これは過去のものではない。今こそ、必要である。」

〈文責〉高知市民権・文化財課学芸担当

旅する資料

館蔵資料
の
出展



博物館は企画展のため、互いに資料の貸し借りをおこなっています。
今年も、当館所蔵資料が各地の博物館で展示されますのでご案内します。

高知県立坂本龍馬記念館

「大義と忠誠の戊辰戦争

—会津・土佐・三春の

幕末明治—展

◆開催中～9月27日(木)

この企画展は、「戊辰戦争から150年を迎えるにあたり、幕末以降会津戦争に至る土佐と会津の関わりを解き起こしていくとともに、戊辰戦争を契機に自由民権運動まで続く三春との歴史的関わりについて紹介する」ものです。

当館からは、会津での戦いの後、板垣退助を中心とする写真をもとに作製された石版画「戊辰戦争従軍土佐藩兵」や、土佐と三春の民権家の交流を伝える資料として、「弘瀬・西原宛松本茂書簡」を出展しています。また、「民権ばあさん」として知られる楠瀬喜多の肖像写真、福島県三春出身の自由民権家で楠瀬喜多との交流もあった河野広中の肖像写真、そして「楠瀬喜多宛河野広中書簡」も出展しています。



展示風景
右に石版画「戊辰戦争従軍土佐藩兵」が見える

高知県立高知城歴史博物館

「幕末維新時代の群像展

—土佐の社会と人物—

◆9月14日(金)～11月26日(月)

この企画展は、「幕末維新という一大転換期において、土佐の人々はどうのようになり、行動したのか。人物にゆかりの資料を通じて、時代性や人間性に迫る」ものです。

当館からは、貴重な実物資料である「板垣総理被害短刀」と「福岡孝弟所用脇差」を出展します。「板垣総理被害短刀」は、板垣退助が遊説中、刺客に襲われ刺された時の短刀です。このとき、「板垣死すとも自由は死せず」の名言句を叫んだと言われています。



板垣総理被害短刀(当館蔵)

「近代日本の出発 高知藩の時代」

◆9月22日(土)～11月18日(日)

この特集展は、「版籍奉還から廃藩置県までの短い期間にしか存在しなかった高知藩の政策について振り返る」ものです。

当館からは、板垣退助と福岡孝弟が起草した「人民平均の理」の草案の写しと推測される「高知藩建白 人民平均之議」などを出展します。



人民平均之議(当館蔵)

開催されました

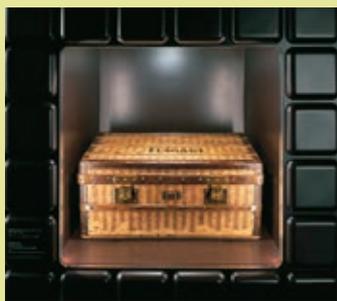
ルイ・ヴィトン

「Time capsule」展

7月14日(土)～8月1日(水)

ルイ・ヴィトンの創業当時から現在までの軌跡を辿る「Time capsule」展が大阪の百貨店で開催され、当館からは板垣退助が洋行中にルイ・ヴィトンのパリ本店で購入したトランクを出展しました。

このトランクは板垣退助のご子孫が大切に保管していたもので、日本人が買ったルイ・ヴィトン社製トランクの中で、実物が確認できる最も古いものです。このトランクは、過去から現在までの日本とフランスの結びつきを示すものであり、大変注目を浴びたそうです。



ルイ・ヴィトン社製トランク
(個人寄託／当館保管)

「志国高知 幕末維新博」

関連企画

「幕末維新博」も最終盤になりました。自由民権記念館も地域会場として活動します。

さて、高知県のホームページには、高知県詞である「自由は土佐の山間より」が、高知県議会定例会において高知県のシンボリックな言葉として位置づけられたことが紹介されています。これは、植木枝盛が1877(明治10)年『海南新誌』創刊号に発表した文章から取られています。そして植木は『海南新誌』第五号に「明治第二ノ改革ヲ希望スル」を発表しました。「戊辰ノ如キハ、政府ノ変換ニシテ政体ノ変革ニ非ズ」政府ノ独裁ヲ廃シテ人民ヲシテ政權ヲ

掌ラシム可キ也」つまり、植木にとっては、明治維新は新たな独裁政府が登場した不徹底な改革であり、第二の改革によって新政府を実現することを主張したのです。それは、憲法制定、国会開設、国民の政治参加と自由権を実現することで成し遂げられると考えていました。これが自由民権運動として発展します。

そこで当館では企画展「明治第一ノ改革―明治維新―を生きた土佐人」と「明治第二ノ改革―自由民権―を志した人々」を開催し、常設展示とあわせて、幕末維新から自由民権の歴史資料を見ていただきたいと思います。

第六弾

「明治第一ノ改革 ―明治維新―を生きた土佐人」

期間 2018(平成30)年9月15日(土)～11月25日(日)
会場 1階自由ギャラリー

記念講演会

「高知藩の近代」

高木翔太氏

(高知県立高知城歴史博物館学芸員)

2018(平成30)年

11月24日(土)

午後3時～5時

1階研修室

申込不要



「遷都」北澤楽天画(当館蔵)

第七弾

「明治第二ノ改革 ―自由民権―を志した人々」

期間 2018(平成30)年10月6日(土)～
2019(平成31)年4月7日(日)
会場 2階特別展示室

記念講演会

「龍馬15年忌祭をめぐる 元海援隊士の動向」

今井章博氏

(高知近代史研究会会長)

2019(平成31)年

2月16日(土)

午後3時～5時

1階研修室

申込不要



◆憲政之祖国・土佐

高知市の東九反田公園には「憲政之祖国」と刻まれた碑があります。幕末維新150年は、土佐の先人が「憲政之祖国」と宣言した歴史を再確認するよい機会ではないでしょうか。

明治維新当時の日本の基本的課題は、不平等条約を改正し対外的に独立した統一国家を建設することであり、そのために立憲政体樹立が叫ばれました。

幕末維新の変革は、この立憲政治実現の端緒となるもので、日本の歴史における大きな画期であり、政治や社会が大きく変動しました。

◆明治維新を象徴する写真

左の二つの集合写真をご覧ください。一つは1868(慶応4)年の冬に、戊辰戦争のため京都に滞在していた土佐藩の武士たちです。もう一つは、1871(明治4)年7月、欧米への視察・留学のためサンフランシスコに到着した、高知藩徳島藩などの青年たちです。いずれにも、後に自由民権運動の指導者、衆議院議長となった片岡健吉が、右端に写っています。3年余の間に青年武士の姿から洋装に変わり欧米に留学しました。明治維新の変革を象徴する写真の一つです。



戊辰戦争従軍中、京都における土佐藩士
(当館蔵)



サンフランシスコにおける各藩視察員
(個人蔵)

◆資料を残した人々

この時期、異国船来訪の記録を残した人、日々の世相を日記に記した人、志士として活動した人、戊辰戦争に参加した人、明治になって洋行した人など、多くの土佐人がそれぞれの立場で行動し、様々な記録を残しています。これら、激動の幕末維新を生き抜いた土佐人の足跡や世相の変化を主に館蔵資料で紹介します。

◆時代を動かした土佐人

日本が近代国家としての歩みを踏み出そうとしたとき、土佐の人々は大きな役割を果たしました。新しい国づくりが問われた時代に、国を憂い、志を持った数多くの土佐の先人たちが活躍し、自由民権のうねりを土佐から起こしました。本企画展では、この自由民権運動に奔走した土佐の民権家たちを紹介します。

◆自由民権運動の成果〜高知でつくられた憲法草案〜

自由民権運動の中で、憲法草案が本格的に起草されたのは1880(明治13)年の秋からです。立憲社は1881(明治14)年に憲法草案の起草に着手しました。現在に伝わっている土佐の憲法草案は、植木枝盛起草の「東洋大日本国々憲案」と



日本憲法見込案
(個人寄託/当館保管)

その草稿である「日本憲法」、そして立憲社案となった「日本憲法見込案」があります。

これらの憲法草案は、全国各地で起草された他の憲法草案とともに、現在の「日本国憲法」の制定過程において大きな影響を与えました。

◆明治のイケメン・織田信福

マスコミ等で「明治のイケメン」として話題となっている織田信福。高知県初の歯科医を開業した急進的民権家でした。この写真は、日本写真史上でもよく知られた写真であり、これまでもポスターや新聞広告など様々なメディアで取り上げられてきました。

今般、ご子孫がこのガラス湿版写真の複製を作成されました。原版は大切に保管されていますが、ご協力をいただき、複製を展示することになりました。

若き日に民権運動に奔走した、近代土佐を代表する一人。ぜひ見に来てください。



(個人蔵)

夏休み子ども歴史教室報告



7月25日(水)、今年で22回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科学部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌などで楽しく学び、知識を深めてもらうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学2年生までの96名が参加し、大いに賑わいました。

運営にご協力いただきました高知市教育研究会社会科学部会の先生方、高知県民謡協会、及び劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。

夏休み5日目のこの日。午前9時から受付開始です。参加者の子どもの様子はというと…今年も猛暑が続いているせい、少々バテ気味!?

受付を済ませて民権ホールに入ると、班別の座席に座り開会式を待ちます。館長からの挨拶などのあと、当館製作の映像資料(4月からリニューアルしたもの)「自由民権って何?」を鑑賞し、先生からの説明をしっかりと聞いたらいよいよクイズラリーのスタートです。

10班に分かれて2班ずつ5つのチェックポイントをまわります。各チェックポイントでの課題をクリアすると、ラリーマップに板垣退助などの民権家スタンプを押してもらい、5種類の民権家スタンプを集めたらラリー終了です。

各チェックポイントの内容は次のとおりです。



受付の様子

第1 チェックポイント



第一展示室をまわりながらクイズに答えます。「西郷(せご)どん」でおなじみの西郷隆盛に関する問題など、全部で5つの問題が出されました。

第2 チェックポイント



第二展示室をまわりながらクイズに答えます。「三大事件建白運動」や「植木枝盛」に関する問題など、こちらも全部で5つのクイズが出されました。

第3 チェックポイント



「笛の会」の皆さん

劇団「笛の会」の皆さんによるお芝居を観てクイズに答えます。明治時代の「自由民権運動大演説会」を再現したお芝居です。女性の弁士さんが女性の投票権について語ったり、劇中劇で板垣退助が襲われた事件の再現シーンがあったり、劇団員の皆さんの迫真の演技に子どもたちは圧倒されていました。そのうち聴衆の一人となってかけ声をかけたり、拍手をしたりして一緒に盛り上げてくれました。

第4 チェックポイント



明治時代に起こった民権運動に関する事柄や、民権家が経験した様々な場面が描かれている、当時実際に作られて遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験しました。さいころを振って出た目の事柄にコマを進めます。上がりの「国会を目指してがんばりました」。

第5 チェックポイント



「高知県民謡協会」の皆さんの太鼓と三味線の伴奏に合わせて、「民権かぞへ歌」を歌います。民謡協会の皆様のご指導と、先生方に当時の歌詞の意味を教わりながら、元気いっぱい歌いきりました。心地よい生演奏に合わせて手拍子を取りながら仲間と一緒に楽しく歌えました。歌ったあとは、錦絵パズルで楽しみました。

参加者全員がすべてのチェックポイントを通じた後、民権ホールに戻って閉会式が行われ、最後に校長先生にご講評をいただき、今年の歴史教室も無事終了しました。

あつという間の時間でしたが、民権に関するクイズ・お芝居・すごろく・歌を通して、少しでも自由民権運動のことを学んでいただけたのではないのでしょうか。これをきっかけに歴史をもっと勉強したいと思う子どもたちが増えてほしいと思います。

出題されたクイズから

- 問1 明治7年に板垣退助たちがつくり、自由民権運動の中心となった結社の名前は何でしょうか?
- ① 松下村塾 ② 立志社 ③ 自由社
- 問2 三大事件建白運動では、「租税を安くすること」「外国との不平等条約の改正」とあと一つは何を求めて運動を起こしたのでしょうか?
- ① 憲法を作ろう ② 国会を開こう ③ 言論や集会が自由に行えるようにしよう

民権かぞへ歌

(植木枝盛作)

ひとつとせ 人の上には人ぞなき
 権利にかはりがないからは
 この人じやもの
 ひとつとせ ひとつとはない我が命
 捨てしも自由のためならば
 この惜しみやせぬ
 ひとつとせ 民権自由の世の中に
 まだ目のさめない人がある
 このあわれさよ
 ひとつとせ 世の開けゆく其早やさ
 親が子供に教へられ
 この悲しさよ
 ひとつとせ 五つに分れし五大州
 中に屯細亜は半開化
 この悲しさよ

「志国高知 幕末維新博」にあわせ、当館が所蔵する幕末維新史に関する資料を四回シリーズで紹介いたします。(第四回)

◆ 開国を回顧する

今回は、幕末維新史そのものではなく、開国後50年・60年経た後に、その間を回顧する形で、子どもや庶民に向けて発行されたものを二点紹介します。とりあげられた項目によって、その時代の歴史感覚が垣間見られると思います。同様の発想でこの150年を対象とすれば何をとり上げるのかを考えてみるのも楽しいのではないのでしょうか。



【開国五十年雙六】

1908(明治41)年1月1日付、博文館が発行した『少年世界』新年号の付録です。巖谷小波が考え、尾竹竹波が描きました。やはり振り出しは「外艦の渡来 ペルリ来りて修好通商を請ふ」です。そして幕末の動乱、明治の諸事件、日清日露戦争を経て「論功行賞」で、全26マスで上がりとなります。「憲法発布」はありますが、自由民権運動や帝国議会のことは出てきません。



肉筆漫画開国六十年図絵：目次

【肉筆漫画開国六十年図絵】

北澤楽天、岡本一平など、当時第一線で活躍していた大正・昭和を代表する画家・漫画家たち25人が一人二点、計50点の風刺画で開国以後60年の歴史を振り返ったもの。全て作者の落款があり、高い芸術性を有していると評価されています。1927(昭和2)年10月20日、中央美術会発行です。

スタートは「遷都」で、以下政治、世相、人物などを題材にしています。土佐人は「初めて国会を開く」に初代衆議院議長中島信行が登場するのが唯一です。最後は「毛断蛙」で、これはモダンガールのことです。この頃モダンガール、モダンボーイの語が登場したように、注釈には「倫理観念の甚だ軽佻浮薄な青年男女」に「誠に苦々敷ことなり」とあります。60年史を飾る最後の作品が日本礼賛でないところは、風刺画家の面目躍如というところでしょうか。



「初めて国会を開く」保積稻天画

「毛断蛙」岡本一平画



Topics

トピックス

「ブギウギ専務」取材

STV札幌テレビ放送のバラエティ番組「ブギウギ専務」の取材で、ウエスギ専務こと上杉周大さんが来館されました。

坂本直寛が北海道に渡る経緯など、「坂本直寛展」を中心に撮影が行われました。残念ながら高知での放送は未定です。



板垣退助謫居(たつきよ)の地

20歳の乾(板垣)退助が、不作法をはたらき、城下並びに潮江、下知、江ノ口、小高坂への立入禁止を受け、1859(安政6)年5月に許されて中島町の実家へ帰るまでの4年の間、生活を送った所です。

平成30年7月、「板垣退助謫居の地」の碑が板垣会により高知市神田に建てられました。

※謫居…罪を受け、引きこもること。



行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

開催中～9月24日(月・祝)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画
第五弾
「坂本直寛
—龍馬の遺志を継ぐもの—」展

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

9月15日(土)～11月25日(日)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画
第六弾
「明治第一ノ改革
—明治維新—を生きた土佐人」

会場：1階自由ギャラリー
※常設展観覧券が必要

ワークショップ

午前の部10:00～12:00
午後の部13:00～16:00

申込
不要

会場：1階研修室

9月29日(土)

「Myしおりを作ろう！」

参加費：150円

10月27日(土)

「Myコースターを作ろう！」

参加費：300円

11月17日(土)

「Myペン立てを作ろう！」

参加費：250円

9月29日(土)10:00～

申込不要

◆民権史跡探訪
「濱口雄幸生家記念館」見学会

案内人：民権・文化財課文化財担当
現地集合 少雨決行

10月6日(土)～4月7日(日)

■「志国高知 幕末維新博」関連企画
第七弾

「明治第二ノ改革
—自由民権—を志した人々」

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

10月13日(土)13:30～16:00

申込不要

◆友の会第18回「県詞の日」記念講演会
「ほんとうの自由とは何か
—植木枝盛の『出獄追記』と
その前後」

講師：ヨース・ジョエル氏
(高知県立大学文化学部教授)
会場：1階研修室

11月24日(土)15:00～17:00

申込不要

■高知近代史研究会第96回研究会
「明治第一ノ改革—明治維新—を
生きた土佐人」記念講演会
「高知藩の近代」

講師：高木翔太氏
(高知県立高知城歴史博物館学芸員)
会場：1階研修室

12月13日(木)10:00～

申込不要

◆「兆民忌」
集合場所：高知市筆山上り口(雨天中止)
筆山にある中江家の墓参り

12月23日(日・祝)13:30～

要申込

◆土佐風を作ろう(第22回民権風まつり)
会場：1階自由ギャラリー

1月4日(金)14:00～

申込不要

◆土佐風を揚げよう(第22回民権風まつり)
場所：鏡川北岸 トリム公園(雨天中止)

1月23日(水)～2月24日(日)

■第19回社会科自由研究作品展

会場：1階自由ギャラリー
市内小中学生の社会科に関する研究作品を
展示

1月23日(水)10:00～

申込不要

◆「無天忌」
集合場所：高知市小高坂市民会館(雨天中止)
植木枝盛の命日に墓所の清掃と墓参り

2月16日(土)15:00～17:00

申込不要

■高知近代史研究会第97回研究会
「明治第二ノ改革—自由民権—を
志した人々」記念講演会
「龍馬15年忌祭をめぐる
元海援隊士の動向」

講師：今井章博氏(高知近代史研究会会長)
会場：1階研修室